連盟ニュース 神奈川　１月

No.504

「那須岳の朝日岳」（藤沢山の会　岩田新一）

※常任理事会が１月１５日に開催された関係で「連盟ニュース」の発行が通常より遅れました。ご了解下さい。

「事故一報」の送付先をお知らせします。

＊「事故一報」の全国・県連へ迅速な連絡＊

全国窓口：労山基金制度運営委員会メール kikin@jwaf.jp/FAX03-3235-4324

県連窓口：遭難対策部メール及び基金申請書は、ホームページの連盟員のページから

神奈川県勤労者山岳連盟

〒221-0045　横浜市神奈川区神奈川２－１４－６　トーリクビル３階

ホームページ https://k-rouzan.net

発行責任者　早川尚武

発行年月日　２０２３年1月１５日

１月号（Ｎｏ．５０４）　目　　次

広沢寺の岩場清掃集会２０２３（第２１回）ご協力のお願い ――――――――― ２
浦添労山会長「登山届システム　山岳団体が共同運用開始」（新聞記事） ――― ３
教育部　実技第３回　読図講習（実技講習新聞記事）の報告 ――――――――― ４
《福島を忘れないプロジェクト》福島第一原発２０km圏内ツアーレポート ―― ９
『救助隊秋季定期講習会』報告書 ――――――――――――――――――――― １２
２０２２年度　関東ブロック自然保護担当者会議に参加して ――――――――― １６
自然保護委員会活動報「第３回丹沢の山小屋に泊まろう・木ノ俣小屋」 ――― １７
自然保護委員会報告 ――――――――――――――――――――――――― １９
常任理事会議事録 ――――――――――――――――――――――――― １９
各会の活動報告 ――――――――――――――――――――――――― ２０
県連のスケジュール ――――――――――――――――――――――――― ２４

広沢寺の岩場清掃集会２０２３（第２１回）　ご協力のお願い

神奈川県勤労者山岳連盟　様
２０２２年１２月１６日
広沢寺の岩場を守る会　代表
安村淳

拝啓、コロナ禍により２０２０年より２０２２年迄３年間中止をしておりました広沢寺の岩場清掃集会を、下記の通り再開する事と致しましたので貴団体のご協力をお願い申し上げます。

敬具

１．日時；２０２３年３月５日（日）、９：００～１２：００
２．集合；３月５日、８：３０、広沢寺前市営駐車場
３．清掃場所；広沢寺の岩場、及び七沢地区
４．内容；広沢寺の岩場及び周辺道路の清掃、及び登山道/里山作り運動への協力
５．持ち物；軍手
６．貴団体へお願い事項；
①貴団体の傘下団体、及び会員の皆さんにご案内頂ければ幸いです。
②清掃集会の案内に「協力団体」として貴団体名を記載させて頂く。

広沢寺の岩場を守る会　事務局（代行）

スポーツサイト

日本勤労者山岳連盟会長
浦添嘉徳

冬山シーズンを迎え、年末から新年にかけて冬山を満喫しようと計画している登山愛好者が多いと思います。

厳冬期の登山は厳しく、体力と力量、経験が必要で、遭難すると死につながる危険が待ち受けています。だから周到な計画と装備・冬山の気象情報を的確に把握することが求められます。

冬山における山岳遭難事故は増加しています。2022年（21年12月から2月）の発生件数は367件で前年より3件多く、遭難者数は468人で25人も増えています。

■登山届システム■

山岳団体が共同運用開始

スポーツ庁は、冬季の遭難が多発していることから各都道府県知事などに通知し、山岳遭難事故防止を呼びかけています。日本勤労者山岳連盟（労山）も年末・年始の積雪期登山および転倒事故を防止するため、地方連盟に対して事故防止を呼びかけています。

冬山の三大リスクといわれる「吹雪」「滑落」「雪崩」は、天候に大きく影響を受けます。これらにどう備え、回避するかは、準備段階からの対応が重要になってきます。そこで要になるのが登山計画です。

登山計画は、登山する山域の特徴をつかみ、天候変化や積雪の状態を予測して装備を選択します。また、行動予定だけでなく、退避時のコースや緊急時の対応も考えておく必要があります。

それらを文書にまとめたものが登山計画書です。計画書はパーティーと登山者を守る命綱になります。作成はパーティー内でよく検討し、全員が共通の認識にしておくことが大事です。

残念ながら計画書の提出率は高くありません。過去5年間に遭難したパーティーの提出状況をみると、未提出が83・5％、提出が16・5％となっています。計画書提出の有無は、遭難した時の捜索・救助活動に大きく影響します。特に迅速な対応が求められる冬山では生死を分ける場合があります。登山口の登山届ポストや最寄りの警察署、家庭や所属クラブなどに出しておきましょう。

山岳4団体（日本山岳会、日本山岳・スポーツクライミング協会、日本ガイド協会、労山）は今月15日から、インターネットによる登山届システム「コンパス」を共同運営することになりました。

このシステムは、全国28の県警本部、31の自治体と協定を結んでおり、コンパスのアプリで登山計画書を作成すれば、協定を結んでいる県警本部および自治体に転送されます。

私たちは遭難対策防止に貢献するため、30％弱しかない登山届提出率を60％に引き上げることを目指しています。

２０２２年１２月２４日
「しんぶん赤旗より」

11/12（土）　教育部 実技第３回 読図講習（実技講習）の報告

AC 横浜：神谷（記）

１．読図実技のエリア

中央線梁川、斧窪御前山周辺（ルート図等後述）

２．各班のメンバー構成（敬称略）

１班－スタッフ：矢後（グラッチェ）＆小野（カモ）、参加者：３名
２班－スタッフ：伊藤（川崎 HC）、参加者：３名
３班－スタッフ：鍋野（AC 横浜）、参加者：３名
４班－スタッフ：若澤（相模 AC）、参加者：３名
スイーパー－スタッフ：神谷（AC 横浜）
※スタッフ：県連教育部と救助隊メンバー、参加者の所属会：藤沢山の会、川崎 HC、AC 横浜、川崎労山

３．当日の行動記録の概要

9:00　中央線梁川駅前に集合
9:15　主任講師挨拶、講師の紹介、グループ分け（４班）と参加者の自己紹介
9:33 １班出発、9:40 ２班出発、9:46 ３班出発、9:53 ４班出発
10:50 頃 ２班～11:10 最終の４班 斧窪御前山の山頂（522.9m）着
13:23 最終の４班 標高 505m の№1 鉄塔と№40 鉄塔の交差地着（昼休憩＆簡易ハーネス作り練習）
14:30 ４班～14:45 １班出発
15:53 最終の２班が梁川駅に帰着、反省会
16:10 頃 解散
※行程の前半は、梁川駅を 1→４班の順に約５分ずつ時間をずらして出発
行程の後半は、昼休憩地点を前半とは逆に４班→１班の順に約５分ずつ時間をずらして出発

４．実技講習のレポート

今年度、教育部で読図講習が企画され、机上は 5/11 と 11/2 に行われ、実技講習は 11/12 に開催された。今回実技の参加者の多くは机上講習２回目の 11/2 にも参加した。机上と実技ルート選定は、教育部の若澤さんが担当し、スタッフは AC 横浜の神谷を除いて全員が下見山行を行った上で実技講習に臨んだ。

当初参加予定だった早川理事長兼救助隊長曰く、「簡単過ぎるという参加者の声も出てくるのでは」とのことだったが、参加者の多くは読図に関してかなり弱かったと言わざるを得ず、講習に適した学びの多いルートであったと思う。このことは読図ができなくても、スマートフォンの GPS 地図アプリを利用し現在地の確認を容易にできるようになったことと無関係ではないと思われる。GPS 地図アプリを否定するわけではなく私も頻繁に利用するが、それだけでは駄目だと思う。地形図を読むことにより、この後のルートが予測でき状況も予想でき、今後進むルートへの準備ができると考える。またスマートフォンに頼り過ぎると登山でも大事な「考える」という行為が鈍くなるのでないかと思う。

今回各班のスタッフは、参加者が間違ったルートを進んで行ってもあえてすぐに指摘せず、参加者が気付くまで待っていた。実際、多くの班はルートを間違えたり思い悩んだりしたが、それによって「考える」機会を作ることができて良かったのではないかと思う。御前山を過ぎた辺りから、早くも計画書の予定下山時刻 14:30 よりもまま遅くなるのではと予想し実際そうなったが、CL として各班の間を行き来し様子を見て、各班のスタッフの判断、ペースを尊重した。

今回、ルートを間違え思い悩んだ参加者は是非、机上で若澤さんが説明された資料を復習の上、資料にも記載されていた以下のことを特に心掛けて、今後山に行ってはいかがだろうか。

・印刷した地形図ルート上にある特徴的な地形や危険個所、迷いそうな場所に予め印を付ける。

・視線を上げて周りを見る。

・尾根の中心を外さないように歩く。

今回の参加者が、ルートミスや間違いから些かなりとも学べたのなら、スタッフの一人として嬉しい限りである。

５．スイーパーの記録

さて、ここからはスイーパーとしての記録を綴ります。今回の読図実技、体調不良の早川隊長の代打として急遽スタッフとして加わりましたが、「CLとして統括せい！」とのこと。文字通り、「聞いてないよオ」でしたがスイーパーの役目と解釈し、各班を行ったり来たりしました。ただスタッフの中で唯一下見をしてなかったことと、各班を行き来する途中で単独行動になったりするので気を付けました。スタッフが道迷いして迷子になったら物笑いの種にされますので！

今回の読図ルート（時計回り）／　３班のトラッキング

出展：「地理院タイル」https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.htm

梁川駅を出発して、上図のルートを時計回りに進みます。１班→2 班→3 班→4 班の順に５分以上間隔を空けてスタート。1-3 班の出発を見送り最後尾の４班とともに出発しました。暫く４班と一緒に歩いた後、４班に別れを告げ、早歩きで３班を追跡！すると意外に早く３班を発見！！

３ 班は左図の赤矢印付近にいて、赤矢印方向に少し進んでから少し戻ったところでした。（正しいルートは緑）まだ山にも入ってないのに何故こんなところで？次の４班に追いつかない様来た道を急いで戻り、４班スタッフの若澤さんに「少しゆっくり行って下さい」と伝令し、また踵を返して早歩きで先に進んで３班を追い越しました。

中央線に沿って大月方面に早歩きで進むと、またすぐに２班に追いつき合流。２ 班はやがて赤矢印の方に進んで行った。あれっ？皆さん気付いていない様子でしたので、「ルート間違っているのでは？」と声かけしました。２班の皆さんに「登山道に入る地点はルート図では中央線がトンネルを出る直前ですよね？」「左の方に中央線見えませんか？」⇒見えるでしょう！(笑) 黙っていた方が良かったでしょうか？そのまま進むと水力発電所に辿り着き、さすがに気付くでしょうから。

登山道に入るとこを通り過ぎる２班

斧窪御前山の中腹の鳥居で１班に追い付いた♪

さて次は先頭の １ 班だ！２ 班に別れを告げ、地形図通りキツイ斧窪御前山を早歩きで上り、中腹の鳥居で１班に追い付きました。１班はスタッフと参加者が部活の先輩と後輩のような雰囲気で、きめ細かく読図のイロハをレクチャーしていて、やがて少し下の支尾根を確認しに下って行ってしまいました。そのうち２班が追いつき２班と一緒に山頂へ向かい、山頂で小休憩。

やがて３班と４班も山頂に到着し、一時は全班が山頂に集合して混みあったので、休憩の終わった班から順次出発しました。

私はというと、再び最後尾の４班に暫くお伴しました。４班は若澤さんがコンパスに特に力を入れ、厳しく優しくアドバイスしていました。さながら高校のベテラン教師と生徒たちのような雰囲気でした。

斧窪御前山を下り切ったコルで４班と別れ、３班を追跡しました。すると尾根からそれた赤矢印のルートを進む ３ 班に追い付きました。すぐにスタッフの鍋野さんが私を制するジェスチャーをしました。これは私が間違ったルートを３班が進んでいることをばらすことを危惧してのことでしたが、言いませんよー。(笑)

３ 班とともにトラバース気味に進んでいきましたが、矢印先端の急峻な斜面の手前まで来て戻る判断をし、少し戻って尾根伝いに復帰しました。C エリアで北北東に向かう分かれ道も難しいポイントで、少し時間が掛かりましたが正しいルートに入り下りました。やがて ３ 班に別れを告げ、単独で先のグループを追いかけましたところ、１ 班に追い付きました。あれっ？２班は？と思いましたが、下山後１班のスタッフに聞いたところ、１班はわざと494m 地点まで行ったとのことで、それで少し遅れたわけだと納得。538m ヨソ木山まで一緒に行き、その後は最後尾の４班とともにお昼休憩のＴ字電線鉄塔スポットまで歩いて行きました。

読図集中する１班メンバー　尾根を下る４班メンバー

Ｔ字電線鉄塔スポット（お昼＆簡易ﾊｰﾈｽ練）

お昼休憩の後は、４班→３班→２班→１班の順でスタートし、私はあまり接点のなかった２班のお伴をすることにしました。すると、途中で上りになるはずなのに、水平なトラバース・ルートを突き進んでいました。もっと前から気付いていましたが、かなり進んで私は右下に道路を見つけ（赤矢印の先端あたり）、かなり行き過ぎたのでさすがに「行き過ぎじゃないですか？」と。２班メンバーはコンパスを見て「方角は合っているはずだ！」と仰いますが、想定する現在地が間違っていたら、間違った方向に進んでしまうわけで、、、。本来の分岐点はお昼休憩ポイントから 200m ちょっとの位置で、分岐点までの距離 200m 歩く感覚をつかむのも良いのでは、と申し上げました。

大きく寄り道をしてしまったので、２ 班が一番最後の班だろうと思い、引き続きゴールまで２班と一緒に行くことにしました。ラスボスはＥポイントの分岐点でしょうか。ここも分かりにくくはあるのですが、どう判断したら良いかをアドバイスさせていただきました。一言で言いますと、手掛かりをたくさん得ることで正答に近付き、少し進んで正しかったかどうかを判断する方法などを僭越ながら申し上げました。

Ｅ 地点の後は下り基調で、やがて太田峠へ、続いて車道に出て無事梁川駅に帰着することができました。

今回スタッフとしての参加でしたが、若澤さんの設計したルート、お陰様で楽しむことができました。若澤さん、皆さん、どうもありがとうございました。

６．参加者の感想

〇藤沢山の会　参加者感想

・地図読みの学習ということで、オリエンテーリングのような感じかと勝手に想像していましたが、 かなりハードな山行でした。道なき道を行く場面もあり、急坂をずるずる足を滑らせながら必死で登 りました。泣きたくなる一瞬もあり、情けなかったです。でも、この講習会で、コンパスの使い方が やっと理解できました。ただ、自分が地図上のどこにいるのかがわからないと、せっかくコンパスが 使えても意味がありません。地図読みの大切さが実感できました。今後一歩一歩頑張りたいと思いました。このような貴重な体験をさせていただき感謝しています。（1 班：村上洋子）

・会では、大山の個人山行、世附権現の教育部会山行に続く 3 回目の読図山行で、回を追うごとにレベルが上がり気づきも増えました。地形図からわかることは沢山ありますが、地図に自分自身を入れこまないと現在地や目的地を特定するのは難しいと知りました。歩きながら距離感を養うことが次の課題で す。ますます地図が好きになりました。
（2 班：徳永麻紀）

・登山口のとりつきが難しく、行き過ぎて戻ったりし、コンパスの方向だけでなく、対象になる線路やトンネル等までよく見て確認することが大事だと分かりました。又、尾根を外し、歩きやすい トラバースの方向に踏み跡を求めて行ってしまい、その先が沢筋で行けそうもない場所だったり、下ばかり見て、登りやすい尾根を逃して、つかむ所もないような、落ちたら危険な場所を登るはめになり、後ろから講師に支えて貰って、やっと上がれたり、反省点が沢山ありました。できなかった所は、今後の教訓になりました。3 班の N 講師は、受講生が違う方向に行こうとした時も、そちらは違う、ダメとはすぐには言わずに、A さんはどう思う、B さんはどうかな？と、一人一人に考えさせるチャンスや時間を作ってくださった事が、私には大変良かったです。（3 班：川越まち子）

・事前の準備の大切さやコンパスの使い方など、たくさんのことを教えていただき、『読図って楽しい』と思えた充実した講習でした。（4 班：舘恵子）

・普段整備された登山道が殆どだったので、想像以上にハードな山でした。 今回の講習では、自分が行こうとする山がどんな山なのか、あらゆる手段を使って地図に情報を落とし込んでいく事前準備がいかに大事か、気づかされました。でも、コンパスの使い方はやっとわかりました。 次回又機会があれば、もう少ししっかりと予習しておこうと思いました。（4 班：神戸裕理）

≪福島を忘れないプロジェクト》 福島第一原発 20km圏内ツアー レポート（9/10～11）

川崎ハイキングクラブ自然保護部　清水陽子

１日目：福島県楢葉町大谷の宝鏡寺境内にある、原発事故の教訓を伝えるために住職早川篤雄住職が自費で立てた施設、２０２１年３月開館の「伝言館」を訪問。※1
庭には、「原発悔恨・伝言の碑」。１階には「エネルギー・アレルギー」と原発推進を謳（うた）う旧科学技術庁のポスターや除染の写真、汚染水や震災関連死についての説明パネルなど約 100 点を展示。地下には、原爆に関するパネル※2 などがぎっしりと展示されていました。

※１：国が５３億円を負担、県が建てた 2020 年９月開館「東日本大震災・原子力災害伝承館」とは別。
※２：上野の東照宮境内にあった「広島・長崎の灯」が社殿の防火対策を理由に移転と言われ、福島の宝鏡寺が引き受け、福島と共に将来にメッセージを伝える「伝言の灯」と命名し移設した。

原発悔恨・伝言の碑

電力企業と国家の傲岸に
立ち向かって　４０年、力及ばず
原発は本性をむき出し
ふるさとの過去・現在・未来を奪った

人びとに伝えたい
感性を研ぎ澄まし
●　知恵を振り絞り
力を結び合わせて
不条理に立ち向かう勇気を！
科学と命への限りない愛の力で！

早川篤雄
安斎育郎

「エネルギー・アレルギー」と書かれたヌードの女性の大きなポスター。
原発を推進するために旧科学技術庁が作ったこのポスターは、当時もきっと、さぞ人目を引いたことだったろう。
原発建設反対運動が盛り上がっていた頃に、それを揶揄するような意図で旧科学技術庁が作ったもので、町や村の自治会掲示板に貼られたのだという。

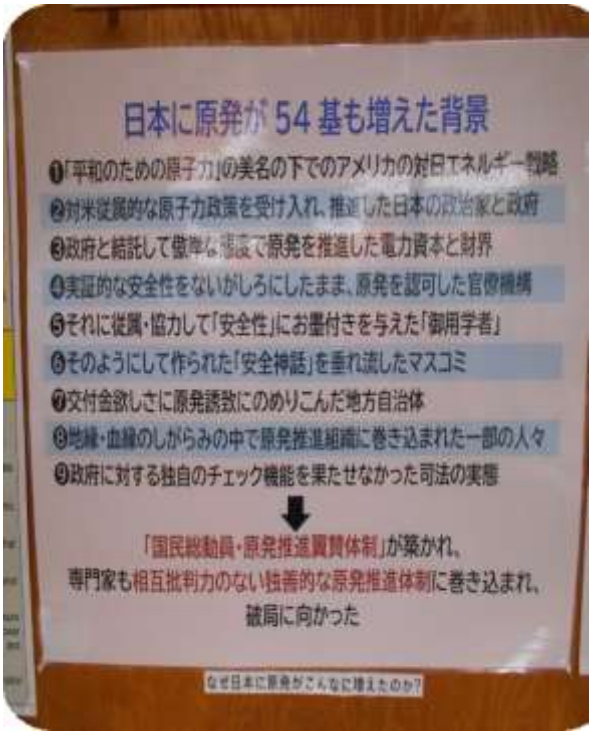
原発を気にする人間は
アレルギー症なのか？

原子力の日 10 月 26 日（1978 年）

《原子力はすでに使われています。
エネルギー不足が予想されている今、
正しい知識も必要です》と。

《光と緑のふたばのつどい エネルギーフェアー86》

1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故の4か月後に福島県双葉郡大熊町とその周辺で開催されたイベントのポスター 。



「日本に原発が５４基も増えた背景」

宝鏡寺の住職早川館長のお話

1970 年代、高校で教鞭をとりながら、東京電力福島第二原子力発電所建設計画反対運動。その頃から保存してきた原発関連ニュースの新聞やチラシ、ポスターなどをもとに作成した年表をもとに、核使用の出発点から、アメリカ、日本政府の原子力政策、反対運動をしてきたが、力足りず事故を起こしてしまったと悔恨を込めて、これからのことを話していただいた。（早川住職は 2022 年 9 月逝去されました。P12 追悼文編集部注）

《核の平和利用》という言葉がまやかしであり、原発は軍事力の保持、拡大につながっていくことを、伝言館の展示は如実に示していました。

福島第一原発 20 ㎞圏内ツアー２日目

２日目：《20 ㎞圏内》を案内してくださったのは NPO 法人「野馬土」の三浦宏志氏。
南相馬市の小田区井田川付近の農地は津波被害からの再生も行われていない状態の荒地。
復興組合による農地の農地の再生、新しいコミュニティーづくりをしている。

土の入れ替えや除染中の畑

至る所に太陽光パネル

広大な草地に草刈りロボットが

双葉駅周辺は今もゴーストタウン

《避難解除》とは喜ばしいニュースのようですが、実際に訪れてみると駅周辺は静まり返っていました。真新し駅舎、明るい駅前通りに面したほんのわずかな所に真新しい建物が白く輝いていますが、それ以外の道路沿いの商店も住宅も帰還困難区域のまま。駅に行く道のみが解除されている状態みたい。駅前の明るい道路にも人っ子一人いないゴーストタウン。
SF の世界のような話ですが、これが現実。
浪江町の「道の駅」でやっと、初めて家族連れの姿を見ました。（日曜日なのに）

※双葉町と隣の大熊町にまたがるように福島第一原発が立地する。
※２０２１年夏、実施した双葉町の住民意向調査では「町に戻りたいと考えている」は１１．３％、

「戻らないと決めている」は６０．５％、３０～４９才は７割に上る。

「双葉町」の新駅舎

双葉駅前通り、人がいない！

※2022 年 8 月 30 日、福島第一原発から４ｋｍの双葉駅中心の復興拠点の避難指示が、11 年半ぶりに解除された。原発事故で唯一、全町避難が続いていた双葉町だが、今も大半が帰還困難区域のままだ。

放置されている家

2020 年 9 月オープンの
「原子力災害伝承館」

双葉厚生病院

浪江町の請戸漁

復興のシンボル：浪江町の「道の駅」の遊び場に
初めて家族連れが！

※大震災で被災した福島の 10 漁港の中で最後の 2021 年に復旧工事が完了した請戸漁港。
しかし、「原発処理水の海洋放出」を地元の漁業団体も反対や心配。

※増え続ける原発「汚染処理水」の海洋放出を
原子力規制委員会が今年 7 月正式に認可。
国と東電は来春の放出開始を目指している。
※原発から沖合１ｋｍまで海底トンネルを建設。
その先端から処理水を海水で薄め、放出するという。

楢葉町「伝言館」代表、宝鏡寺第30世住職・早川篤雄さんを悼む

「福島原発２０Ｋｍ圏内ツアー」主催者　代表　佐々木　功

福島県楢葉町の「伝言館」代表、宝鏡寺の住職で、半世紀にわたり反原発運動を続けた早川篤雄さんが２０２２年１２月２９日、８３歳でお亡くなりになったとの訃報を受け取りました。

「福島をわすれない」プロジェクトは、「福島第一原発２０Ｋｍ圏内ツアー」を２０２２年9月１０日（土）～１１日（日）の日程で貸し切りバスを仕立て、南相馬を訪問しました。第一日目に訪れた「伝言館」は、震災と原発事故から１０年を迎えた２０２１年３月、早川さんは原発事故の教訓を伝える目的で、宝鏡寺の境内に開設。原発被災地を理不尽に奪われた悔しさを後世に伝える資料の展示、活動について詳細にお話頂き、「今自分にできる事を一つ一つ実行してきた」と話され、そうした粘り強い取り組みと信念を伺う事が出来ました。また、半世紀にわたり、反原発の運動を続け、２０１１年の原発事故後に避難生活を余儀なくされた避難者が東電を相手に起こした損害賠償請求訴訟の原告団長となり、２０２１年３月最高裁で、東電に賠償金を支払うよう命じた２審・仙台高騰裁判所判決が確定し、６月には東電から社長名で謝罪を受けた事について、早川さんは「謝罪は原告団に表明されたものだが、被災を受けた全ての住民に向けられたものと受け止める」と応じるなど、長年に亘る取り組みと暖かい人柄に感銘を受け、勇気づけられました。

こうした数々の取り組みに感謝申し上げると共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

『救助隊秋季定期講習会』報告書　　１１月２６日～２７日

実施日・講習内容・場所：

１１月２６日（土）ファーストエイド、ビバーク訓練　［秦野市表丹沢野外活動センターにて］

１１月２７日（日）ロープ、スリング、カラビナを使ったセルフ・コンパニオンレスキュー、ロープを使った登り返し（懸垂下降途中からの登り返し）等　［モミソ岩にて］

講習参加者：藤沢山の会　６名、相模ＡＣ　２名、カモの会　４名、ＡＣＹ　２名、川崎労山　４名、Ｍ＆Ｃ名　１名（計１９名）

１日目（２６日）秦野市表丹沢野外活動センター室内でＦＡ机上及び実地講習（ＦＡ、ビバーク訓練）

ファーストエイド講習・・・資料にて机上講習、事故発生の初動、ＦＡ実施、救命救急ＣＰＲ

●ファーストエイド講習会・・・傷病者への救護措置（要救助者への接近と接触～体位変換）

体位変換時には単純に体位変換すればよいものではなく、頸椎保護の重要性を含めて実施しました。要救助者の運搬では、ヒューマンチェーンにて各種手の組み方、立上りと降ろし方を行いました。今回導入した２体のＣＰＲ人形を使用しての訓練では、想像以上に体力とコツが必要と参加者は実感していました。特に女性は全体重を載せるのが難しかった模様です。人工呼吸については、正しい吹き込みを行わないと人形の肺が膨らまないので、机上のみでは伝えられないことがＣＰＲ人形にて掴めました。ＣＰＲ人形により３０圧迫２呼吸の流れを通して行えることにより、条件が良い室内でもいかに心肺蘇生が大変であるか感じられたと思います。

●ビバーク訓練・・・ツェルトの張り方、場所の選定、防寒対策、耐寒訓練。

ツェルト設営が初めての参加者への指導。また、各種様々なメーカーのツェルトの特徴を比較した。概ね終了した頃に日没となりました。その後、約２時間の訓練を行いました。単独、行動食のみ、自身のＦＡキットで過ごす時間を体感するのが目的です。今回の訓練場所はキャンプ地の為、設営が楽で尚且つ気温も高めだったので訓練としては易しめでしたが、実際では条件が悪いのと精神的な部分も加わるのでいかに山中では大変さ増すかの基準にはなったのではと思います。訓練終了後はどの様な模様だったか情報交換をしつつ食事を摂り、各自シュラフに入り就寝しました。

２日目（２７日）（ロープを使ったレスキュー訓練）

当初は戸沢バンガロー跡地周辺を講習会場に予定していましたが、作治小屋で多くの宿泊客によるイベントが

行われており、駐車もままならない状況であったため急遽モミソ岩へ訓練場所を変更しました。開始時は段取り変更のために多少手間取りましたが、皆さんの協力でスムーズに開始できました。訓練内容は主に、懸垂下降中の仮固定、仮固定からの登り返し、ビレイデバイスを使った登り返し(自己脱出)、ビレイデバイスのガイドモード時のブレーキアシストの解除方法、マルチピッチクライミング時のフォローの一時的な引上げ、ボディービレイ時の一時的脱出などを､慣れていない方もなるべく身に着けて帰ってもらえるようにしっかり時間を取りました。また､ロープレスキューの要救助者の引上げ･引き下ろしなども､岩場脇の立木を使って試すこともできました。２日間参加の方、また１日のみの方も、自分で実際に試すことができ、皆さん何かを得ることができたのでなないかと思います。皆さん２日間お疲れ様でした。(私もスタッフ１年目で大変勉強になりました。スタッフ記)

初日：ファーストエイド講習

初日：ファーストエイド講習

初日：ファーストエイド講習

初日：ビバーク講習

初日：ビバーク講習

２日目：セルフ・コンパニオンレスキュー

２日目：セルフ・コンパニオンレスキュー

２日目：セルフ・コンパニオンレスキュー

参加者の声：

★秋季講習では大変お世話になりました。楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。[仮固定と登り返し]１０月に若手クライミング講習会でも教えていただいた登り返しを短い期間をおいて復習することができ、また、二通りのやり方を教えてもらえたことで、より理解が深まり、何回か実践することでスキルとしてしっかり身につけることができたと思います。[引き上げ１／３，１／５]引き上げは初めて。これまで本で勉強してもいま一イメージがつかめてなかったけど、実際にやり方を見せてもらうことで、なるほどなと基本の仕組みを理解する事ができ、また、いくつかのバージョンを教えてもらえたことで応用の幅を広げることができました。[感想]実践で役立つ知っておくべき知識、スキルを学び、体験し、身につけることができて、大変ためになり、勉強になりました。ありがとうございました。（カモの会　Ｙ）

★これまでツェルトを立てたことがなかったので、貴重な経験になりました。ツェルトでタンカを作ったり、三角巾の活用方法を知る事ができたのも勉強になりました。心肺蘇生法はいざ実践できるかわかりませんが、知ってるだけでも違うなと思いました。

[要望]強いていえば、ツェルト泊はもう少し標高の高いところ等でできたら本番に近いのかも？と思いました。（芝生で予想外に快適だったので‥）以上となります。このたびはありがとうございました！（カモの会　Ｍ（ＦＡ、ビバークのみ参加））

★先日は救命講習ありがとうございました。基礎的な知識が全くない人でもわかりやすく説明いただき助かりました。今回は室内でしたが屋外でさらに、実践を想定した項目を増やしていただけたらイメージしやすいと思います。また、ぜひ勉強させて下さい。（カモの会　Ｈ（ＦＡのみ参加））

★講習会ありがとうございました。訓練内容もですが、他の会の方や先輩方とも交流が出来て大変有意義な２日間でした。こういう技術の習得については、アルパインをやる上で登攀力を上げる事と同じくらい大事だと思っていたので、私にとってはとてもタイムリーな講習内容で有り難かったです。ぜひ定期的に開催して頂ければと思います。（相模アルパインクラブ　Ｋ）

★２日間にわたりご指導頂き大変有難う御座いました。初日のファーストエイドではＣＰＲ人形を使用した訓練など、なかなか自習できないメニューもあり、大変参考になりました。また２日目のレスキュー訓練でも普段練習しないロープワークの復習が出来ました。定期的な訓練が重要であることを改めて認識しました。今後もこうした講習会には参加したいと考えております。両日共にとても充実した内容だったと思います。これは個人的な希望ですが、２日間連続の講習は少々しんどい部分もありますので（講師の方々はもっと大変かと思います）、可能であれば日程を分けて頂けるとありがたいと思いました。以上、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。（川崎労山　Ｍ）

★ＦＡ講習会は会でもやっていますが、ＣＰＲ訓練を実際に行うのは今回が始めてでした。訓練用ダミー人形使用し、最初は下顎の角度、押さえ方、鼻の塞ぎ方が微妙で、空気が漏れてしまい、胸郭が動くようになるまで難しく、数回やってやっと成功しました。体位変換は、頭部を固定しながら、大きな身体の男性を一人で仰臥位に

したり、ツェルトに乗せて数人で移動するのも慣れないと大変でした。実際山の中では、物品や人も揃わない所で何倍も大変になりますが、訓練を受け、知識が有るのと無いのとでは違ってくると思います。

ビバーク訓練は、ツェルトを持ち歩いても、今まで一人で張ったことがなく、ペグの使い方、張り綱の角度等、講師にアドバイスして頂き、設営できました。暗くなり、一人でツェルトの中で過ごす２時間は長く感じましたが、現実は、もっと寒く、厳しい状況で一夜を明かす事になるだろうと想像し、貴重な体験ができて良かったです。今回の講習会では、会ではやれなかった内容や、習っても忘れていた部分もあり、これから毎年でも継続して行く意義を実感しました。（藤沢山の会　Ｋ）

★[ファーストエイド講習]今回は、マネキンを使用してのＣＰＲ訓練は、胸骨圧迫をするとクリック音を確認ができましたが、人工呼吸ではマウスピースの根本から空気が洩れてしまって、正しく人工呼吸ができずマネキンの胸を膨らませることができませんでしたが、マウスピースに印刷されていた口の形にして、マネキンにセットしたマウスピースに息を吹きこんだら、マネキンの胸が膨らみ正しく、空気が送り込まれたことが確認できました。８月の渡渉訓練時にＦＡ講習を受けたばかりですが、“回復体位”について曖昧でしたので、定期的に市の救急救命講座を受講することが必要と痛感しました。※前回の救急救命講座を受講したのは平成28年（2016年）でした。[ビバーク講習]会では、山行での個人標準装備には“ツェルト”は入っておりませんが、個人的に常に、リュック の中には入れおります。残念ながら会のビバーク講習の経験が無い為、今回のビバーク講習を受講させていただきました。事前に、ツェルトを使用してのビバーク講習資料を確認していたのでイメージは掴めていたのですが、実際にツェルトを使用してのビバークは良い経験になりました。寝袋とマットを用意していた為、寒くはありませんでしたが、寝袋とマットが無い場合を想定するとかなり厳しい“ビバーク”になるので、安全・安心な山行に細心の心掛けが必要性を改めて再認識しました。

マルチピッチ講習会の時は、覚えることが多すぎて、登り返しついては、不完全燃焼でしたが、今回は登り返しに特化していただき、仮固定から荷重の移し替えと登り返しの手順について、講師の方の丁寧な説明と繰り返して練習させていただき、理解することができました。後は、自宅での反復練習することで、自分の技術にできる様に精進することにします。講師のみなさん　本当にありがとうございました。（藤沢山の会　ＯＹ）

★今回は登り返しと救助者の引き上げシステムの２点に絞って講習していただいたので、繰り返し練習が出来て理解することが出来ました。参加者をグループ分けせず、練習場所を登り返しのロープ３か所と引き上げシステムに分けて参加者が移動して練習したので、より多くの方と練習したり話が出来、やり方を見ることが出来たのがとても良かったです。（セレフレスキューのみ　藤沢山の会　ＯＪ）

★救助隊のみなさま、今回はセルフレスキューの講習会を企画していただきましてありがとうございます。以下感想になります。

登り返しは講習会に参加する都度、説明を受けていたように思うのですが、いつも定着できず、記憶から消してしまっていたように思います。今回は参加者のレベルが高く、当然のように登り返しを行っているのを目の当たりにして、これは当たり前のように登り返しが出来るようにならないといけないなと思いました。練習のメニューに組み込んで身につくようにしていきたいです。

レスキューの練習については、初学だったのですが、実践的で身に着けるべき必要な技術だと思いました。何かあったときの一助になると思うので、ハイキング中心の藤沢山の会でもレクチャーしておくと良いのではないだろうかと思いました。まだまだ知らないことも多く、教えてくれていることも奥が深いので、このくらいの頻度で講習会をしていただけると本当にありがたいです。また、このような実践に役立ちそうな講習会をお願いいたします。（セレフレスキューのみ　藤沢山の会　Ｎ）

★ファーストエイドや救命救急は、職場や自治体のものも含めて何度か受講していたが、今回は特に、山で想定しうる危険が多岐に亘ることを学んだ。大事なのはまず自分自身を守ることと、要救助者の生命を維持し悪化させないということ。しっかり心構えするためにもファーストエイドは反復して受けていきたい。ツェルトを自分で設営して中で過ごす体験は初めてで、我ながら上手く設営できた。しかし周囲に照明があり、人の声が聞こえるキャンプ場と違い、山ではどれだけ不安で心細いだろうということも強く感じた。ビバークをする状況にならないに越したことはない。手段としての技術習得は必要だが、それ以上に安全登山の意識が大事だと再認識で

きた訓練だった。（藤沢山の会　M）

2022 年度 関東ブロック自然保護担当者会議に参加して

神奈川県自然保護委員　伊藤美江子（地平線の会）

１１月２６日（土）Zoom にて会議がありました。
出席者：千葉県連１３名、それ以外の１都５県１０名、計２３名。神奈川から渡辺会長、伊藤
■千葉県連理事長　野田久生氏の開会挨拶。その後、菅井修氏の司会で①コロナ禍での活動状況②各県特有の活動と問題点③今後の活動、の観点で各県から活動報告があった。神奈川県連からは、渡辺三男会長が自然保護委員会の活動報告をされた。

【栃木】１，０００人規模で２日間かけて行われる足尾の植樹に救護班担当で参加。会員の高齢化で避難小屋２箇所の整備がしにくい。

【埼玉】高篠峠の植樹を委託され４年前に実施した。年２回下草刈りを行っている。東北復興支援活動にいき、金華山の登山道整備とみちのく潮風トレイルを歩いた。

【東京】クリーンハイクは密にならないようにブロックに分け、日にちを分散して実施した。三ツ峠でアツモリソウ保全活動に協力した。

【群馬】谷川岳の開山行事と清掃活動を行った。

【茨城】笠間市難台山にて６月にクリーンハイクを行う。５団体２４名、ゴミ重量１４㎏。里山との共生の行事に参加。

【神奈川】５月に丹沢クリーンハイクを行う。１２６名、ゴミの量は８５㎏。大腸菌の有無を調べる水質調査、丹沢ボラネットから委託の箇所も担当している。東日本復興支援に５月と１１月に行き、植樹や上品山のツツジの下草刈りをした。

【千葉】鴨川メガソーラー設置計画反対運動を行っている。現在は計画は凍結中。他の２山岳会と共に「房総の山復興プロジェクト」を結成し活動を始めた。

■質問や討論のフリーの時間では次の話題が出た。
○他県と交流で里山保全活動に参加。１２月の竹の伐採・焼き芋、春の筍狩りは好評だった。
○（神奈川県）１９９１年から丹沢の水質調査を行っている。山で飲水している沢水、湧水の安全性を調べるのが目的だ。最近は、市の要請で名水の調査は行っていない。
○（千葉県）話題のチバニアンの調査は、労山としては行っていない。
○植樹について：スギを伐採してまたスギを植えている場所がある。森を再生するには、針葉樹よりも落葉広葉樹が良いように思う。
（神奈川）丹沢自然保護協会の植樹では、丹沢で採取した種を苗木に育てて植えている。
○自然観察会はどのような事を行っているか？⇒植物観察、野鳥観察、秩父巡礼路
○自然観察ブームによる弊害：高山植物を見るために人が押し寄せてきて、登山道の荒廃と一部の心ない人の乱獲で植物の数が減っている
○登山はどうしても山の自然にダメージを与える。そこで、山に同行する人に次の２点をお願いする。①登山道を歩いて下さい。②写真を撮るために登山道以外に踏み出さないでください。
○（千葉）房総の山は低山だ。ヤマビルがいるために自然保護活動は冬に限られる。①高齢化でチエーンソーを担いでの活動はきつくなっている。②予算が少ない。
（参加の感想）各県連のコロナ禍での活動の話が聞けた。自然保護は、クリーンハイク、植物・動物の生態系の保全、トイレ、登山道や山小屋の整備、メガソーラー設置や自動車道路の開発問題と多岐にわたり、ともすると活動が散り散りになりがちだ。各県が情報交換してアイデアを持ち帰り、県での活動に生かしていければと思う。司会の菅井氏の「山岳会の自然保護とは山の負荷を少なくしていくことだ」の言葉にも深く頷いた。（伊藤記）

自然保護委員会活動報「第3回丹沢の山小屋に泊まろう・木ノ俣小屋」

＊日　時：令和４年１２月３日（土）～４日（日）
＊参加者：渡辺（相模ＡＣ）関根（みずなら山の会）植田（地平線の会）川越、前田、田中、萩原（藤沢山の会）
＊日　程
１２月３日（土）
大倉バス停８：３０―１０：３０戸沢林道終点１０：５０―政次郎尾根にて土嚢袋に土を詰め登山道の段差補修作業―１５：３０木俣小屋（泊）
１２月４日（日）
木ノ俣小屋７：２５―新大日―三ノ塔―二ノ塔―日本武尊足跡碑―菩提峠―１３：４５ヤビツ峠
＊活動報告

神奈川県は代表的な山として丹沢山塊を保有しています。その身近な山を見守っている役割をも担ったりしている小屋（山荘）は「このコロナ感染状況の中で運営、対策をどのようにして頑張っているのか？　同じ山の仲間として協力したい」との思いから、「先ずは現状を知りたいね」ということで、山小屋に泊まろう、そして体感しようと実施しました。丹沢山の“みやま山荘”、大山と三ノ塔の間にある“丹沢ホーム”、丹沢表尾根の“木ノ俣小屋”と利用させて頂き、その都度感想を報告しました。

それぞれの小屋は特色があり、如何に快適に過ごせるかを工夫していることを感じることが出来ました。若い世代の方々は日帰りの山として丹沢を歩いていると思います。ゆっくりと歩き、周りの景色を楽しみながら、そして小屋泊りで余裕を持って歩くのはどうですか？足元に気を付けて歩を進めれば素敵な景色に出会えそうです。

自然保護委員会　関根

＊参加者の感想
◆登山道整備は、家庭菜園用の移植ごてで周辺の土を集めて土嚢袋に詰め、えぐれた箇所に置き、段差を小さくするというものでした。これなら、大掛かりな整備作業と違って、誰でもできると思いました。例えば、山行の時に移植ごてと土嚢袋の１，２枚を持参すれば、気が付いたところに土嚢を置くなんてこともできるのかなと。登山道が荒れると歩きにくい→脇道を歩く→広範囲に荒れていく→枝道が複数にできる→道迷いしやすい、という負の連鎖に陥ることが、今回、政次郎尾根を歩いて実感できました。

木ノ又小屋はとても快適でした。温かい達磨ストーブにポトフの夕食、野菜たっぷりの朝食、布団に毛布が２枚、清潔なトイレ等々心地良い一夜が用意されていました。今回は、藤沢山の会、みずなら山の会、相模AC、地平線の会と、４つの会での相互交流もでき、それぞれの会のこと、仲間のこと、県連の今昔…と、お喋りに花が咲いたことは言うまでもありません。今回の企画は、丹沢の山をゆっくり歩いて山小屋で交流して、県連の横のつながりもできる素敵な企画だな、と思いました。次回はどこの山小屋でしょうか？　また、是非参加したいと思います。

登山道整備、クリーンハイク等、県連の自然保護委員会の活動の場として、また、教育部や救助隊の講習の場として、やはり丹沢は神奈川県労山にとって要の山域だなと感じました。（植田米利子・地平線の会）

◆木ノ又小屋は過去に２回宿泊し好きな小屋で、数年前にリニューアルしたと知り、泊まってみたかったのと、県連自然保護委員の話を聞きたいと思い、申し込みました。政次郎尾根の登山道整備は、体力があまりない私にはできるかなと心配でしたが、２～３人ペアで袋に土を入れる作業で、段差が大きい場所に土嚢を敷いて固定し歩きやすくなった時は、達成感がありました。その日は、山小屋組合の方やボランティアの方が、早朝から作業を終えて下ってくる時にすれ違いました。政次郎尾根は、丸太を敷いた古い登山道が崩れている所もあり、表尾根方面に行く登山者も多く、整備されたら安全でさらに歩きやすくなる、と思いました。

木ノ俣小屋は、トイレが外で新しく土足では入れませんが、綺麗に手入れされ、食事する部屋は、明るくおしゃれになり、夕食のポトフも美味しく、朝食は目玉焼き、ベーコン、サラダ、フルーツまでついて、野菜がたっぷりな食事に大満足しました。ランプと、だるまストーブは、以前と変わらない雰囲気が残っていました。

夕食までの２時間は、県連の会長、自然保護委員長、事務局の方から、県連の組織、石巻の震災ボランティア活動、又、他の会（相模ＡＣ、みずなら山の会、地平線の会）の話が聞けた有意義な時間でした。県労山の全体を知り、自然保護委員の活動が、クリーンハイク位しか知らない人にとっても、質問や意見交換ができるよい機会でした。又、来年の企画も期待したいです。（川越まち子・藤沢山の会）

◆丹沢は日帰りが多く、なかなか小屋に泊まる機会がありません。今回はチャンスと思い参加しました。登山道整備のお手伝いも少し経験し、何より他の会の方達とお話しできてとても楽しかったです。また、機会があったら参加させて下さい。（前田美智子・藤沢山の会）

◆「丹沢の山小屋に泊まりたくて」私は登山道補修を体験できた。楽しい山での思い出も増やせた。県連主催の企画は日頃縁遠いと思っていたが、今回の参加では、好きな丹沢を歩きつつ、登山道整備や植樹の現状を知る機会を得ることが出来た。個人では出来ない体験と、山を大切に思う様々な方々の支援に支えられて、丹沢の山は守られていることを実感できる小屋泊となった。（田中洋子・藤沢山の会）

２０２２年１２月　自然保護委員会報告

日時：１２月２６日(月)１８時～２０時

出席者（敬称略）：

＜対面での参加＞渡辺（相模ＡＣ）、関根（みずなら山の会）、磯部、北野（地平線の会）

＜リモートでの参加＞河合（川崎ハイク）、中村（やま++）、萩原（藤沢山の会）

◆　「山小屋に泊まろう」感想文

―感想文について、原稿を元に最終修正の協議を行った。

◆２０２３年度クリーンハイクについて協議。

―基本方針：２３年度も実施する。開催予定日は５月２８日（日）

―実行委員会について

１月２４日の事務局長会議にて、以下のことを報告・依頼する。

①クリーンハイクは５月２８日開催すること、

②２月２７日（月）より月１回（毎月最終週の月曜１８時～）実行委員会を開催する。（対面＋Zoom）

Ⅲ実行委員を選出してもらうことをお願いする。

◆２０２３年度自然保護委員会の活動方針

―“クリーンハイク”、“東日本震災復興支援”、“山小屋に泊まろう”、“里山の自然観察”、“丹沢ホーム主催植樹祭への参加”など２０２２年度に実施した活動は継続。

―追加で行う活動を１月の自然保護委員会にて協議する。

候補：

①自然保護に関連する世界・日本の大きな動きに関する報道の共有・協議

②川崎ハイク、藤沢山の会など、会の中に自然保護関連の会を持っている組織との

情報交換会の設置、など。

③自然保護委員会独自での植樹活動はできないのか？（石巻山の会のような）

など

◆その他

―里山観察“小野路散策”は１月２８日（土）に開催予定。

―「丹沢大山自然再生活動報告会」は１月１４日（土）に開催予定。参加希望者は独自に申し込み。

◆次回開催予定・・・

１月３０日（月曜）１８：００～２０：００

県連事務所（トーリクビル３F）

（自然保護委員　中村　潤一）

常任理事会議事録（Ｚｏｏｍ）

日　時：１月１５日（日）２０：００～２１：１０

出席者：早川・神野・渡辺・植田・関根・岩田　入木田（事務局）

第38期上期後半理事会3/12　議案書第一稿の議論を中心に

議案書前文・救助隊（理事長）、自然保護部が第一稿提出

○　３号議案「討議」をどうする。議案書の朗読会ではない、討議を深めたい。３号で討議しても１号の報告に立ち返ることになる。３号議案で各専門部の報告に戻って議論してもいいと思う。議長次第で討議の深まりが決まる。

○　県連に各会が何を望むのか、聞きたい。理事会がそういう場になればと思う。

○　各会から要望など出してもらうよう要請する。

○　救助隊は各会から一人くらい出してほしい。何人いればいいか補足。アルパイン中心か。ハイキングでも救助技術は必要。セルフレスキューが大切か。熱中症対策とか。

○　上期の理事会。１年間の総括。書記は１名。

○　石巻ボランティアについて。石巻だけでなく他の被災地へのボランティア活動はどうか。

○　石巻ボランティアは多様な取り組みと有意義な経験ができる。だから今後も続ける。

○　自然保護活動にさまざまな人が参加することに意義がある。

○　クリーンハイクはアピール活動。

○　自然保護活動への幅広い参加をどうする。

第二稿締め切り１月３１日

早川理事長より／救助隊より／教育部より／自然保護委員会より／事務局より／新スポ連より

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告　2022年 12月

活動報告送り先：　jim001rouzan.kanagawa@k-rouzan.net

沢：沢、講習会：講	人数	形態	H:ハイキング、A一般登山、S雪山	人数	形態	SKI山スキー、R岩、氷 ｱｲｽｸﾗｲﾐﾝｸﾞ	人数	形態
川崎勤労者山岳会　機関誌：「あざみ」　http://sangakukai.wix.com/kawasakirouzan								
報告：田中良子　計18名（男12女6）　平均年齢56.0歳								
12/1天目山～七跳山	1	H	12/11湘南鷹取	3	R	12/16ヤビツ峠から大山	1	H
12/4鷹取	2	R	12/11白毛門	3	S	12/18湘南鷹取山	1	H
12/4妙義山	3	A	12/13丹沢　聖峰	1		12/23日の出山	1	H
12/8本仁田山～川苔山～蕎麦粒山	1	H	12/15菜畑山	2	H	12/24高尾山	1	H
12/10景信山-高尾山	2	H	12/16かぐらスキー場	1	SKI	12/25曲岳～黒富士	1	H
12/10表丹沢～塔ノ岳	2	A	12/17-18Xmasクライミング鷹取、城山	4	R	12/30湯河原　幕岩	3	R
山岳会　カモの会			http://www.kamonokai.com/hp/index.html					
報告:カモの会事務局　計57名　（男34　女23 ）　平均年齢42.6歳								
12/01 湯河原幕岩	2	R	12/10 富士山	2+1	S	12/17 塔ノ岳ボッカトレ	1	H
12/03 佐久志賀の岩場	2+1	R	12/10 二子山	1+1	R	12/18 谷川岳天神尾根（1班）	1+6	S
12/03 御前岩	1+1	R	12/10 霧訪山	1+1	H	12/18 由布岳	1+7	A
12/03 城山	1+1	R	12/11 木曽駒ケ岳（日帰り雪訓）	4	S	12/18 湯河原・幕岩正面壁	3	R
12/03 三つ峠（アイゼントレ）	2	R	12/11 熊伏山（日本三百名山）	1+1	A	12/18 湯河原幕岩	1+1	R
12/03 湯河原幕岩	2	R	12/11 クレヨンウォール	1+1	R	12/18 湯河原幕岩	2	R
12/03 城山	6	R	12/11 八ヶ岳（赤岳鉱泉まで）	1	S	12/18 湯河原幕岩	1+2	R
12/03 明神ヶ岳	1	H	12/13 三つ峠	3	S	12/18 御前岩	1+1	R
12/04 モミソ沢(アイゼントレ)	3+2	R	12/15 白嶽（対馬）	1	H	12/19 八ヶ岳裏同心ルンゼ、赤岳主稜	1+1	R
12/04 佐久志賀の岩場	3	R	12/15 城山（対馬）	1	H	12/23 城ケ崎海岸	1+1	R
12/04 御岳	1+1	R	12/16 有明山（対馬）	1	H	12/24 城山クライミング&キャンプ	6	R
12/04 湯河原幕岩	2+1	R	12/17 三つ峠（アイゼントレ）	2	S	12/24 広河原沢 2ルンゼ、阿弥陀岳奥壁	1+2	R
12/06 三つ峠アイゼントレ	1+1	R	12/17 硫黄岳	2	S	12/24 阿弥陀岳北稜	1+2	R
12/06 金時山	1	H	12/17 城ケ崎海岸	1	R	12/24 野猿谷	1+2	R
12/08 城ケ崎海岸	1+1	R	12/17 BC雪訓	1+13	S	12/24 湯河原幕岩	4	R
12/10 雪上訓練1班(富士山)	5	S	12/17 足尾銅山 松木沢ジャンダルム	1+1	R	12/24 青葉の岩場	2	R
12/10 雪上訓練4班(富士山)	6	S	12/17 奥多摩、高水三山	1	H	12/25 御前岩	1+1	R
12/10 雪上訓練3班 富士山五合目付近	4	S	12/17 谷川岳　雪上訓練　2班	1+7	S	12/25 湯河原六方の滝	4	H
12/10 城山	5	R	12/17 湯河原幕岩	2	R			
12/10 雪訓2班(富士山)	6	S	12/17 南八ヶ岳 裏同心、小同心	1+1	R			
銀嶺会(https://ginreikai101.wixsite.com/ginrei)								
報告：　計5名（男0　女5 ）　平均年齢								
12/3-4　裏同心ルンゼ	2	R	12/10-11 城山	1+2	R	12/24 広河原2ルンゼ（二俣敗退）	1+2	A
12/4 天王岩	1+1	R	12/11 赤岳鉱泉（北沢）	1	A	12/25 阿弥陀岳北稜	1+1	R
12/6 金時山	1	A	12/17 松木沢ジャンダルム	1+1	R	12/25 下仁田ボルダー	1+1	R
12/10-12 甲斐駒黄蓮谷右俣	1+3	R	12/24-25 赤岳鉱泉アイスキャンディー	1+2	R	12/25 赤岳鉱泉アイスキャンディー	1	R
12/10-11 宝剣岳F沢（敗退→木曽駒）	1+2	A	12/24 真教寺尾根（牛首敗退）	1+1	A			

川崎ハイキングクラブ　機関紙「りんどう」			http://kawasaki-hc.life.coocan.jp/					
報告：守口尚美　計90名（男43　女47　）　平均年齢68.歳								
11/17　九鬼山／富士急沿線	3	A	11/29　室内例会	23		12/6-7　秩父札所めぐり／秩父	1	H
11/17　鐘ヶ獄／丹沢	9	H	12/3　仏果山／丹沢	5	H	12/10　顔振峠／秩父	11	H
11/19　大菩薩峠／大菩薩連嶺	10	A	12/3　檜洞丸／丹沢	1	A	12/10-12　高千穂峠、大箟柄山、開門岳／九州	5	A
11/19　畦ヶ丸／丹沢	1	A	12/4　金時山／箱根	17	A	12/11　南山・権現平／丹沢	9	H
11/19　葉原峠／長瀞	9	H	12/5　衣張山／鎌倉	11	H	12/11-12　三筋山／伊豆	6	H
11/27　むかし道／奥多摩	9	H	12/4-5　大日峠・札立峠／秩父	6	H	12/11-12　二十六夜山／道志	8	A
11/26-27　梅ヶ瀬渓谷・御殿山／房総	23	H						
地平線の会								
報告：植田米利子			(女7名)　平均年齢64才					
12/3～5木ノ又小屋	1+他	A	12/14広沢寺	1+他	R	12/30広沢寺	1+他	R
12/8幕山	1+他	R	12/20城山	1+他	R			
12/10広沢寺	1+他	R	12/25真鶴半島	3+他	H			
小田原ナーゲル山の会　機関誌：　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ https://www.nagel.jp								
報告者：菊地　智　計21名（男14　女7）　平均年齢　61歳　（2022/6月現在）								
12/3 矢倉岳(21世紀の森から)	1+4	T	12/5-6 熊野古道トレッキング（熊野から那智勝浦まで）	1+1	H	12/29 お坊山・笹子雁ヶ腹摺山（甲斐大和から周回）	5+1	A
12/4【 秋定例山行】 屏風山・浅間山/箱根（畑宿から）	6	A	12/18 西伊豆山稜線歩道 (仁科峠から達磨山高原ﾚｽﾄﾊｳｽ迄)	4	A			
会名　みずなら山の会　ホームページ　http://www.mizunarayama.com/								
報告者　木津博子　　人数　37 名（男 22名・女 15名）平均年齢　65歳								
12/4　丹沢　丹沢山	6	H	12/10～19 ニュージーランド	1+4	H	12/24　丹沢　塔ノ岳	1	A
12/4　湯河原幕岩	1+2	R	12/11　湯河原幕岩	1+2	R	12/25　湯河原幕岩	2+2	R
12/10　湘南鷹取	2+1	R	12/18　丹沢　広沢寺	4+1	H	12/27　高尾山	1	H
12/10　大楠山	2	H	12/18　黒斑山	3	S	12/28　笠取山	4	S
12/10　湯河原幕岩	3	R	12/23　丹沢　塔ノ岳	2	A			
Grazie　http://ocha-time.xsrv.jp/								
報告：相川　時子　計16名（男10　女6　）　平均年齢44歳								
12/3 中山尾根	2+1	R	12/3　新大日茶屋解体作業（塔ノ岳表尾根）	4+15	A	12/4　甲府幕岩	1	R
12/10-12/11　富士山（雪訓）	6+1	S	12/17-12/18　広河原沢（八ヶ岳）	1+1	R	12/18　城ヶ崎	2+2	R
12/17-12/18　新大日茶屋解体作業（塔ノ岳表尾根）	1+15	A	12/24-12/25　ビーコン訓練	1+3	S	12/24　木の又小屋（塔ノ岳政次郎尾根）	1	A
12/29-12/30　爺ヶ岳（東尾根）	4	S	12/29　高尾山	1+1	A			
やま++　http://yamaplapla.sakura.ne.jp								
報告：計17 名（男10女7 ）　平均年齢61.1歳(22/12/31現在)								
12／4　丹沢 鍋嵐　読図山行	8	読図	12／6　奥秩父　茅ヶ岳	4	H	12／10　奥多摩　百蔵山・扇山	2	H
12／11　奥多摩　日の出山御岳山	4/1	H	12／16　奥多摩　景信山・高尾山	1/1	H	12／25　八王子城址	3	H
12／29　奥多摩　大岳山	3	H	12／29－30　東北　裏磐梯高原	5/1	H	12／30　近江　鶏冠山	1	H

M&C（マウンテニアリングアンドクライミング） http://mandc.moo.jp/								
報告： 計23名（男18 女5 ） 平均年齢50.4歳								
12/1 三浦アルプス(二子山、乳頭山)	1+1	H	12/10 鷲頭（クレヨンウォール）	2+2	R	12/23～12/24 湯河原幕岩	1	R
12/3～12/4 八ヶ岳裏同心ルンゼ	2	氷	12/11～12/11 湯河原	1	R	12/24～12/25 野猿谷、阿弥陀北稜	1+2	R
12/3 木曽駒ケ岳（福島B）	1	S	12/11 湯河原	1+2	R	12/23～12/31 大堂海岸＆名張	1+1	R
12/3 八ヶ岳（中山尾根）	1+2	R	12/11 城ヶ崎	1	講	12/24～12/25 城山、湯河原	1+1	R
12/3～12/4 城山～城ヶ崎	1+1	R	12/11 湯河原幕岩	1+1	R	12/24～12/28 八方スキー場	1+1	S
12/3 丹沢ハタチガ沢	1+1	沢	12/11 湯河原幕岩	1+1	R	12/24～12/25 八ヶ岳 中山尾根	1+1	R
12/3～12/4 鷲頭（クレヨウォール）	2+5	R	12/15 御前岩	2	R	12/24～12/25 二子山	2	R
12/3 城ヶ崎（シーサイド）	1+1	R	12/21 鷹取山(横須賀市)	1+1	R	12/25 丹沢（塔ノ岳）	1	H
12/3 小川山	2	R	12/16～12/16 城ヶ崎（シーサイド）	1+1	R	12/26～12/28 猪苗代スキー場	1	S
12/3～12/4 八ヶ岳（裏同心ルンゼ～大同心北西稜）	2+1	R	12/16 湯河原幕岩	1	R	12/29～12/30 旭川層雲峡	1+2	氷
12/4 榛名山（黒岩）	1+1	R	12/17 春日渓谷（佐久市）	2+3	氷	12/28～12/31 蝶ヶ岳	1	S
12/4 湯河原幕岩	1+1	R	12/17 八ヶ岳（裏同心ルンゼ～大同心北西稜）	1+1	R	12/27 高柄山	1	H
12/4 小川山	2	R	12/17 足尾（ジャンダルム）	1+1	R	12/28～12/31 戸隠（西岳P1尾根、P2尾根）	1+2	R
12/6～12/6 城ヶ崎	1+1	R	12/17～12/18 二子山	2	R	12/28 鷹取山(横須賀市)	1+1	R
12/6 甲府幕岩	2	R	12/17～12/18 鷲頭	2	R	12/29～12/30 城ヶ崎	2	R
12/8～12/8 城ヶ崎（シーサイド）	2+3	R	12/17～12/17 七沢	1+1	R	12/29 鷹取山(横須賀市)	1+1	R
12/10～12/11 宝剣岳（宝剣沢F沢）	2+1	氷	12/17 八方スキー場	1	S	12/30 かぐら	1+1	S
12/8 丹沢（大山北尾根）	1	H	12/18 湯河原幕岩	1+4	R	12/30～12/31 八ヶ岳縦走（権現岳～北横岳）	1	S
12/10 鷹取山（横須賀市）	1+1	R	12/18 丹沢（塔ノ岳）	1	H	12/30 乗鞍・善五郎の滝	1	氷
12/9 湯河原幕岩	1	R	12/18 兜岩	1+1	R	12/30 湯河原 ボルダー	1+2	R
12/9 丹沢（仏果山～経ヶ岳）	1	H	12/18 城ヶ崎（シーサイド）	2	R	12/31～1/1 北岳	1	S
12/19 三浦アルプス(二子山、乳頭山)	1+1	H	12/18 兜岩	1+1	R	12/31 秋田駒ヶ岳	2	S
12/10～12/11 八ヶ岳（赤岳主稜、裏同心ルンゼ～小同心クラック）	1+1	R	12/20 御前岩	2	R	12/31 八ヶ岳（大同心稜）	1+2	S
12/9～12/10 二子山	2	R	12/20 御岳ボルダー	1	R	12/31 丹沢（塔ノ岳）	1	H
12/10～12/11 城山	1+4	R	12/23～12/23 城ヶ崎	1+1	R	12/31 丹沢（塔ノ岳）	1	H
藤沢山の会 機関誌：「稜線」 http://fujisawa-yamanokai.com								
報告：大野淳子 計90名（男：36、女：54 ） 平均年齢65歳								
12/3塔ノ岳	5	H	12/9大山	4	H	12/18六甲山	1	H
12/3鎌倉・獅子舞～番屋が谷	11	H	12/9六甲山	1	H	12/19大山宝尾根・三峰	4	H
12/3鬼ヶ岳&雪頭ヶ岳	5	A	12/10鎌倉アルプスVR地図読み	11	A	12/23大野山南山麓（奥山家道）	6	A
12/3鐘ヶ岳	10	H	12/10栗ノ木洞南西尾根櫟山	4	H	12/24入笠山	5	S
12/3三浦アルプス二子山東尾根乳頭山	2	H	12/10心源院から八王子城山、太鼓	2	H	12/24金時山・乙女峠	3	H
12/3伊豆山稜線歩道(北部)	4	H	12/11鎌倉・六国見山	5	H	12/24百蔵山	4	H
12/4塔ノ岳	3	H	12/11本仁田山	4	A	12/24大山三峰山VR地図読み	4	A
12/4鎌倉大平山・獅子舞	7	H	12/12離山・ナコウ山	5	A	12/25高麗山東山麓金目川下流域	7	H
12/4王岳～鬼ヶ岩～雪頭ヶ岳	4	S	12/16広沢寺 クライミング(アイゼン＆マルチピッチ)	4	A	12/30赤岳	2	S
12/6大山北尾根枝尾根	4	A	12/17津久井湖城山公園	6	H	12/3~4木ノ又大日	7	H
12/7伊予ヶ岳～富山（下見）	3	H	12/17秩父御岳山	4	A	12/10~19ルートバーン＆マウントクック	5	H
12/7真鶴半島	2	H	12/17権現山	4	H	12/13~16開門岳、韓国岳、高千穂	2	H

12/7広沢寺　アイゼントレ＆マルチピッチ	3	R	12/18筑波山	11	H	12/19~20天狗岳	2	S
12/9北鎌倉　・天園・金沢文庫	2	H	12/18浜石岳	2	H	12/24~25白駒池～縞枯山	5	S
						12/28~29本沢温泉～硫黄岳	4	S
						12/28~29赤岳	4	S
会名　　雪童山の会								
報告者　酒井慶太	人数17名（男9名・女8名）平均年齢　47歳							
12/3城ケ崎	2	R	12/10谷川岳雪上訓練	3	S	12/25広沢寺	4	R
12/4赤岳	3	S	12/16富士山	3	S	12/28霧ヶ峰	2	S
12/4広沢寺	2	R	12/17～18日向倉山	3	SKI	12/30～1/1槍ヶ岳	6	S
12/6谷川岳西黒尾根	2	S	12/17～18赤岳主稜	4	S	12/31入笠山	2	SKI
12/11湯河原幕岩	2	R	12/23日光白根山	2	S			

全国・県連スケジュール

日	曜	１月			２月	日	曜	３月
1	日		1	水		1	水	
2	月		2	木		2	木	
3	火		3	金		3	金	
4	水		4	土	救助隊・訓練山行	4	土	
5	木		5	日	常任理事会	5	日	常任理事会
6	金		6	月		6	月	
7	土		7	火		7	火	
8	日		8	水		8	水	
9	月		9	木	救助隊運営委員会	9	木	救助隊運営委員会
10	火		10	金		10	金	
11	水		11	土		11	土	
12	木	救助隊運営委員会	12	日		12	日	県連定期理事会
13	金		13	月		13	月	
14	土		14	火		14	火	事務局長会議･事務局部会
15	日	常任理事会	15	水		15	水	
16	月		16	木		16	木	
17	火		17	金		17	金	
18	水		18	土	全国連盟評議委員会	18	土	救助隊･雪崩捜索救助搬出講習会
19	木	教育部会	19	日	全国連盟評議委員会	19	日	救助隊･雪山登山講習会
20	金		20	月		20	月	
21	土		21	火		21	火	
22	日		22	水		22	水	
23	月		23	木		23	木	
24	火	事務局長会議･事務局部会	24	金		24	金	
25	水		25	土		25	土	
26	木		26	日		26	日	
27	金		27	月		27	月	
28	土		28	火		28	火	
29	日					29	水	
30	月	自然保護委員会				30	木	
31	火	･事務局部会				31	金	